

事業所における自己評価結果

公表 令和3年3月22日

事業所名 児童発達支援はばたき

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		遊びもコーナーで区切るなどしてけがのないようにしている。	動きの激しい遊びには、交代で行うなど配慮していくようにする。
	②	職員の配置数は適切である	7		全員に目が届くようにお互いに声掛けしている。	公園度の屋外では、常に人数を確認しながら、職員間で見守っている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		気が散るものが見えないような環境に設定している。	歩行が不安定なお子さんにも安心して動ける空間になるように配慮している。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		誤飲の原因になるのでごみなどないようにしている。	玄関など狭い場所での動きやすい環境をもっと検討していきたい。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7		業務での振り返りなどはその日の午後に行い記録し伝えるようにしている。	全員でのミーティングは勤務時間の関係で難しいが、必ず情報は全員で周知するようにしている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている			初年度のため今回から。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している			初年度のため今回から。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			初年度のため今回から。	

適切な支援の提供	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		オンラインなど活用しておこなっている。	オンラインや事業所内研修を行っている。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		日常的に発達を保護者と確認しながら行っている。	日々の振り返りなどでも、職員間で話しながら行っている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		参考になるものを利用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		具体的なわかりやすい項目を検討し使用している。	ガイドラインや他の支援計画など見ながら、適切なものを毎年検討するようにしたい。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		療育日誌にも目標は記入している。	3か月くらいで支援計画の進み具合を確認するようにしたい。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		日々のミーティングで行っている。	各自でプログラムを検討し持ち寄る機会をより作ってきたい。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		同じプログラムでも内容を変えて深みを持たせている。	季節ごとに楽しめるプログラムなども用意しあきない遊びにしている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		1人1人の課題に沿ってモノにしている。	より意識していきたい。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝のミーティングで確認している。	前日には準備と打ち合わせも一度行うようにしている。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		療育日誌を書く際に職員間で話しながら行っている。	その場にはいない職員にもわかるように特記などは記録して確認している。

	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		成長の過程が記録でもわかるようにしている。	時折振り返り、できるようになったこと、未達成なことなどを確認していく。
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		相談支援事業所とも連携している。	モニタリングの必要性を職員間でも共有し、話題にするようしていきたい。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		情報を共有しながら行っている。	お互いに連携の必要性を強く感じている。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				対象児なし
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				対象児なし
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				初年度のため対象児なし
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				初年度のため対象児なし
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		オンライン研修など受けている。	これから少しずつ助言を受けられる手続きをしていきたいと思っている。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		7	コロナのため難しい。	
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		7	コロナのため難しい。	

	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		メールや記録でのやり取りを行っている。	電話での相談など、各人に応じて対応している。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		7	コロナのため難しい。	
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に行っている。	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		面談の時間を設け説明し確認を得ている。	その都度なにかあれば質問など受けるようにしている。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		疑問があればその都度答えるようにしている。	土曜参観のおりにも気になることなど聞いたり質問を受けけるようにしているので活用していきたい。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7	コロナでむずかしいが、保護者会の代わりに土曜日を活用している。	土曜日にピアカウンセリングタイムを設け、保護者間の連携を持てるようにしている。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		メールでも電話でもその場で対応するようにしている。	相談はいつでも受けるようにお伝えしている。
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		月の便り、メールでの写真とともに近況を定期的に伝えている。	コロナのため行事があまりできなかった。
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	7		他のお子さんのことは話さないようにしている。	戸外でもフルネームは呼ばないなど気を付けるようにしている。

	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		言葉以外の伝達手段を利用している。	アイコンタクトや身振りなどで意思の確認を行ってきたい。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7	コロナのため難しい。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		契約時に説明している。	月に一回は避難訓練を行っている。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			月に一回行っている。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		契約時にかくにんしている。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		契約時にかくにんしている。	現在対象児はなし。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		全員で共有している。	必ずサインをして読んだかの確認をしている。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		何が虐待かは議論している。	虐待の事例などと折に触れ話し合っている。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		7		対象児なし。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。